

原 著

# 森式言語能力評価基準表の標準化にむけて

— 使用した検査語彙の妥当性の調査 —

森 寿子<sup>1)2)</sup> 吉岡 豊<sup>1)2)</sup> 藤野 博<sup>1)2)</sup> 瀬尾邦子<sup>1)2)</sup>  
有吉希充恵<sup>2)</sup> 石丸祐子<sup>2)</sup>

川崎医療福祉大学 医療技術学部 感覚矯正学科<sup>1)</sup>

川崎医科大学附属病院 耳鼻咽喉科<sup>2)</sup>

(平成 6 年 4 月 20 日受理)

## Toward Standardization of Mori's Speech-Language Ability Test

— Validity of Test Words —

**Toshiko MORI<sup>1)2)</sup>, Yutaka YOSHIOKA<sup>1)2)</sup>, Hiroshi FUJINO<sup>1)2)</sup>, Kuniko SEO<sup>1)2)</sup>  
Kimie ARIYOSHI<sup>2)</sup> and Yuko ISHIMARU<sup>2)</sup>**

*Department of Sensory Science,  
Faculty Medical Professions,  
Kawasaki University of Medical Welfare<sup>1)</sup>,  
Kurashiki, 701-01, Japan  
Department of Otolaryngology,  
Kawasaki Medical School Hospital<sup>2)</sup>,  
Kurashiki, 701-01, Japan  
(Accepted Apr. 20, 1994)*

**Key words :** Mori's speech-language ability test, vocabulary test, subtest,  
validity of test words speech-language-hearing disorder

### Abstract

Toward standardization of Mori's Speech-Language Ability Test, we investigated the appropriateness in modern times of 66 words of Ushijima's Vocabulary Test (UVT) which was one of the subtests, and we compared our results with Ushijima's results obtained 50 years ago. We exchanged beforehand the 6 words which were supposed clearly unsuitable for modern times.

The results of the investigation were as follows:

1. There was little difference between our results and Ushijima's results in 55 unexchanged words and 3 words out of 6 words exchanged.
2. There was remarkable difference between our results and Ushijima's results in 5

unexchanged words and 3 out of 6 exchanged words, which suggested the necessity of further investigation. It was confirmed that the vocabulary test revised by Mori based on UVT developed 50 years ago was quite useful now. In Japan, there is no test which can evaluate lexical ability of pre-school children from age 0 to age 6 according to age both in comprehension and expression. The new version of UVT (revised by Mori) seems to have clinical implication, for it was able to evaluate in a short time the lexical ability and presence of retardation in young children of varied ages.

## 要 約

森式言語能力評価基準表の標準化に向けて、今回は下位検査の1つである牛島式語彙検査で使用された66語が現代でも適用可能かどうかを調査し、50年前の牛島の結果と比較した。その際、明らかに今の時代にそぐわないと考えられた6語は著者らがあらかじめ入れ換えを行った。

調査の結果は以下のようであった。

1. 入れ換えを行わなかった55語と新たに入れ換えた6語中3語に関しては50年前の牛島の結果と大きな差はなかった。

2. 入れ換えなかった5語と新たに入れ換えた6語中3語に関しては、牛島の結果と著しい差が生じ、今後の検討が必要であった。

50年前に作成された牛島式語彙検査をベースに森らが改訂した語彙検査は、現在も十分に利用できることが確認された。日本には0歳～6歳までの就学前乳幼児を対象にして年齢別に子供の語彙能力を理解面と表出面の両面から評価できる検査は皆無であり、短時間でその子供の語彙能力と年齢からみた遅滞の有無を評価できる点で、新版牛島式語彙検査（森らによって改訂されたもの）は臨床的意義が高いと考えられた。

## 緒 言

現在日本で標準化されている言語検査法をみる限り<sup>1)</sup>、子供の言語能力を言語の持つ4つの側面（聞く力・話す力・読む力・書く力）に大別し、さらにそれぞれの能力を語彙能力・構文能力・音韻能力・会話やコミュニケーション能力（音声言語のみならず絵・文字・ジェスチャー・手話等を用いた総合的意思伝達能力をいう、以下同義とする）と細分化して年齢別に評価する就学前の標準化されたテストがない。著者らは聴覚障害をはじめとする様々な原因で言語発達遅滞を生じた子供の言語治療に20年以上従事し<sup>2)</sup>、言語聴覚障害児の言語能力は多様で、かつ健常児のように全体としてバランスが取れた発達をしておらず<sup>3)4)</sup>、それが就学後の学業不振や学業遅滞の原因となっていることを指摘した<sup>5)</sup>。この就学前の言語発達遅滞に起因する就学後の

学業不振や学業遅滞を予防するためには、言語学習が行われるための諸条件を早期に整備（森式チェックリストとして報告<sup>5)6)7)8)9)10)11)</sup>し、訓練を行いながら言語がどのように年齢に応じて獲得されたかを評価することが必要である。そのためには、子供の言語能力のどの側面に遅滞が生じているのかを、分析的・総合的に評価できる検査法が必要であるが、前述した如くそのような検査法は日本にはいまだ存在しない。日常の臨床場面ではこのような検査は、子供の現在の問題を知り、その問題点に応じた訓練プログラムを立案するうえで不可欠である。この目的を達成するため、著者らは391例の聴覚障害児の臨床データをもとに森式言語能力評価基準表（以下、森式基準表）を作成し発表した<sup>5)6)</sup>。

しかし、森式基準表は後述するように既に標準化されている検査法を利用して幼児の言語能力を評価するための大枠を示したにすぎず、森

式基準表で引用した検査そのものとそれから抜粋した1つ1つの項目が妥当であるか否かの詳

細な検討はいまだ加えられていない。

そこで、本論文では森式基準表で引用した「牛

表1 年齢別言語能力評価基準表（第1次試案）  
（川崎医療福祉大 森式）

6歳						<ul style="list-style-type: none"><li>・語彙年齢6歳以上</li><li>・10までわかる</li><li>・問われた曜日をさす</li><li>・自分の誕生日をカレンダーでさす</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・語彙年齢6歳程度</li><li>・約2100語を話す</li><li>・日本語の110音節文字を80%以上正しく音読</li><li>・複文・重複文を多用</li><li>・接続詞を使って文章を作る</li><li>・歳・住所・親の名をいう</li><li>・5語文の復唱</li><li>・遠城寺式の了解問題に正しく答える</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・読書力6歳程度</li><li>・短文を読んで文にあう絵がさがせる</li><li>・絵にあうかな単語を見つけれられる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・読書力テストの短文の視写ができる</li><li>・日記が書ける</li></ul>
5歳						<ul style="list-style-type: none"><li>・色を10色さす</li><li>・カルタがとれる</li><li>・5円10円がわかる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・語彙年齢5歳程度</li><li>・約1600語を話す</li><li>・補語をもった述語文や重文を多用</li><li>・4－5語を重ねて複文使用</li><li>・目や耳は何をするものかがいえる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・かな文字全てがわかる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・文字や数字を1字ずつ視写する</li><li>・家・木・机などの図形を模写する</li><li>・自分の名前をひらがなで書く</li></ul>
4歳						<ul style="list-style-type: none"><li>・軽重がわかる</li><li>・上中下前後横が4つ以上わかる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・語彙年齢4歳程度</li><li>・約1000語を話す</li><li>・ほとんどの助詞出現</li><li>・単文(主語＋述語構文)を多用</li><li>・4語程度の重文が使用可能</li><li>・平叙文・疑問文の増加</li><li>・姓名をいう</li><li>・3桁数詞の復唱可能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・数字やひらがなの拾い読みをする</li><li>・自分の名前がわかる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・三角・四角の図形を模写する</li></ul>
3歳						<ul style="list-style-type: none"><li>・語彙年齢3歳程度(聴覚のみで検査することが望ましい)</li><li>・上下前後が2つ以上わかる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・語彙年齢3歳程度</li><li>・約500語を話す</li><li>・正しい統語構造を持った2－3語文を話す</li><li>・PVTの単語の復唱可能</li><li>・2数詞の復唱可能</li><li>・動詞を話す</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・絵と絵のマッチングができる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・円を模倣して書く</li><li>・画用紙いっぱい絵を描いて色を塗る</li></ul>
2歳						<ul style="list-style-type: none"><li>・絵本を見て1つのものを指示する</li><li>・身体部位がわかる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・語彙年齢2歳程度</li><li>・約200語を話す</li><li>・2語連鎖文を話す</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・絵本をじっと見る</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・鉛筆を持って縦の線を書く</li></ul>
1歳						<ul style="list-style-type: none"><li>・バイバイに反応</li><li>・玩具の音がわかる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・1語を話す</li><li>・喃語をいう</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・室内を歩く人を目で追う</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・なぐり書きをする</li></ul>
	生活年齢	聞く力	話す力	読む力	書く力	聞く力 (聴覚的言語理解力)	話す力	読む力 (視覚的認知能力)	書く力 (作文力)

註1：太文字はその年齢までには是非獲得させておきたい言語能力。

註2：その他の項目は、言語指導を行う上での大まかな目安となるもの。聴覚障害児ではその年齢までにはできなくても訓練によって獲得される可能性があるため、あくまで目安。

註3：この評価表は遠城寺式、田中ビネー、田口・花上、ITPA、津守稲毛他たくさんの文献を参考にして作成した。

註4：聞く力の語彙年齢はPVT（3歳～10歳）ないしは牛島式語彙検査（2歳～6歳）で評価する。話す力の語彙年齢は牛島式で評価する。

註5：音韻の発達は正常発達では5歳代で完成するが、聴覚障害児では音韻の獲得は最も難しく正常発達のようにはいかない。そこで、就学時までに文字をみれば約8割は正しくいえることをメドに指導すればよいであろう。

註6：読書力は金子書房版幼児・児童読書力検査（3歳8ヵ月～7歳7ヵ月）を使用。

註7：複文は「はめこみ構文」ともいわれる。

註8：重複文は「複文と複文を重ねたもの」なので「並びはめこみ構文」ともいわれる。

註9：文章とは「文 接続詞 文 接続詞…」の形式の文表現をいう。

註10：重文は「単文と単文を連ねたもの」なので「並び構文」ともいわれる。

註11：言語年齢は（聞く力の年齢＋話す力の年齢＋読む力の年齢＋書く力の年齢）÷4で算出する。言語指数は言語年齢÷生活年齢で算出する。チェック項目が全て△の時は6ヵ月程度で判定する。チェック項目の○と×が半々の場合も6ヵ月程度で判定する。

島式語彙検査法」を対象に、牛島式語彙検査法で使用されている検査語彙の妥当性を調査し、若干の考察を加えたので報告する。

## 方 法

### 1. 森式言語能力評価基準表とは

森式基準表は既に標準化されている検査法を出来るだけ利用して、子供の言語能力を測定することを意図して作成された(表1)。具体的には言語能力を「聞く力・話す力・読む力・書く力」の4つの側面から評価する。しかし、表1をみれば明らかであるが、森式基準表にあげた項目は極めて粗大で、言語能力を構成する下位項目(語彙能力・構文能力・音韻能力・会話お

よびコミュニケーション能力)別にそれぞれの情報が年齢別に得られるようには整備されていない。このため、森式基準表を標準化するためには下位項目別検討が必要で、検討が必要な項目は表2～表5にまとめた如くである。本研究では表2と表3であげた牛島式語彙検査法で使用された「検査語彙」の妥当性を調査し、考察を加えるものである。

### 2. 牛島式語彙検査法<sup>12)</sup>とは

牛島式語彙検査法(以下牛島式)は、1歳～6歳までの288名の正常幼児を対象に、50年前に牛島によって作成された。牛島は288名の幼児の日常の自発話をメモ法で記録し、それらの中からもっとも使用頻度の高かった語彙を10語、二番

表2 森式言語能力評価基準表の作成に用いた検査法と今後の検討が必要な項目  
— 聞く力の項目に関して —

評価する言語能力の側面	語 彙 能 力	構 文 能 力	音 韻 能 力	会話およびコミュニケーション能力
使用した検査名	1) 牛島式語彙検査B式(1943年版)(2～6歳) 2) 絵画語彙発達検査(PVT, 1978年版)(3～10歳)	標準化されたものなし	標準化されたものなし	1) 遠城寺式乳幼児分析的発達検査(旧版ならびに改訂版) (言語および知能の理解に関する項目)(0～7歳6ヵ月) 2) 田中ビネー知能検査 (言語の理解に関する項目, 1歳～成人) 3) 田口花上言語能力発達質問紙 (言語の理解に関する項目, 0～6歳)
問 題 点	1) 牛島式が作られて50年が経過しており、検査に使用された66の語彙のいくつかは現在に適さないものがある 2) PVT は適用年齢範囲が3歳以上で3歳未満の子供に使用できない	新たな検討と検査の開発が必要	新たな検討と検査の開発が必要	それぞれの検査法から森式に引用した項目が年齢別にみて妥当かどうか不明

表3 森式言語能力評価基準表の作成に用いた検査法と今後の検討が必要な項目  
— 話す力の項目に関して —

評価する言語能力の側面	語 彙 能 力	構 文 能 力	音 韻 能 力	会話およびコミュニケーション能力
使用した検査名	1) 牛島式語彙検査A式(1943年版)(2～6歳)	標準化されたものなし	日本音声言語医学会版構音検査	1) 遠城寺式乳幼児分析的発達検査(旧版ならびに改訂版) (言語および知能の発語に関する項目)(0～7歳6ヵ月) 2) 田中ビネー知能検査 (言語の発語能力を求める項目, 1歳～成人) 3) 田口花上言語能力発達質問紙 (言語の発語能力を求める項目, 0～6歳)
問 題 点	1) 牛島式が作られて50年が経過しており、検査に使用された66の語彙のいくつかは現在に適さないものがある	新たな検討と検査の開発が必要	適用年齢が明らかでなく、年齢別得点基準も不明	それぞれの検査法から森式に引用した項目が年齢別にみて妥当かどうか不明

目に使用頻度の高かった語彙を20語、3番目に使用頻度の高かった語彙を30語、最も使用頻度が低く子供にとって難解であった語彙を30語、計90語を抽出し、予備検査を行った。さらに牛島は予備検査の結果から、どの幼児にも共通して使用された基本的語彙66語を抽出し、1000例の正常幼児に適用して「牛島式語彙発達検査」を標準化した。

標準化された牛島式語彙検査はA式（表出課題）とB式（理解課題）の2つから成り、A式では絵や動作等を利用して課題語を子供自身が発語できるかどうかを調べる。B式では課題語を検査者がいって子供が正しい絵を指さしたり正しい反応動作ができるか否かで理解語彙能力を検査する。

表2・表3にもまとめたが、この検査は作成されて50年が経過しており、今の時代にそぐわない語彙もあると考えられたため、今回検討の

対象となった。

### 3. 対象症例と資料分析の方法

調査の対象とした症例は、岡山市内の一保育園に在園する2歳4ヵ月から6歳3ヵ月（平均年齢4歳5ヵ月）までの保育園児106名（男49名、女57名）で（表6）、表7にあげた66語の絵を用いて理解語彙能力（問われた絵をさす、あるいはいわれた通りに動作をする）と表出語彙能力（絵の名前をいう、問いに音声言語で答えるなど）を調査した。なお、テストに用いられた66語のうち、明らかに今の時代にそぐわないと判断された語彙が6語あったため、これらの語彙は現代の子供が知っていると考えられる語彙に、著者らがあらかじめ入れかえて（\_\_線が入れ換えた語彙）検査した。新・旧の語彙は、対比して表8にまとめた。

調査は1993年8月2日から9月27日にかけて集中的に行い、それらを牛島の示す基準に従っ

表4 森式言語能力評価基準表の作成に用いた検査法と今後の検討が必要な項目  
— 読む力の項目に関して —

評価する言語能力の側面	語彙能力	構文能力	音韻能力	読解能力
使用した検査名	1) 金子書房版幼児・児童読解力テスト（文字と絵の対応課題）（3歳8ヵ月～7歳7ヵ月） 2) 田口花上言語能力発達質問紙の読みに関する項目	1) 金子書房版幼児・児童読解力テスト（短文を読んで正しい絵をさす課題）（3歳8ヵ月～7歳7ヵ月）	1) 金子書房版幼児・児童読解力テスト（音韻の分解・音韻の抽出課題）（3歳8ヵ月～7歳7ヵ月）	1) 金子書房版幼児・児童読解力テスト（全検査）
問題点	1) 2)とも森式基準法で引用した課題が年齢別にみて妥当か否か十分な検討がなされていない	1) 年齢別得点基準が必ずしもよくわからない	1) 年齢別得点基準が必ずしもよくわからない	1) 3歳8ヵ月以下ではどのようなのか不明

表5 森式言語能力評価基準表の作成に用いた検査法と今後の検討が必要な項目  
— 書く力の項目に関して —

評価する言語能力の側面	語彙能力	構文能力	音韻能力	会話およびコミュニケーション能力
使用した検査名	標準化されたものなし	標準化されたものなし	標準化されたものなし	標準化されたものなし
問題点	新たな検討と検査の開発が必要	新たな検討と検査の開発が必要	新たな検討と検査の開発が必要	新たな検討と検査の開発が必要
全体的問題点	1) 書く力を語彙・構文・音韻・意思伝達能力等のように分析的に評価する必要があるのか 2) 図形や絵の描写能力と文字の分化の過程も不明 — 以上について検討が必要			

て採点した。結果は NEC 製 PC 上の windows-EXCEL に入力し、牛島の正答率と比較すると共に、牛島で使用された語彙の妥当性と著者らが入れ換えた語彙の妥当性を、次の方法で検定した。

1) 牛島は理解課題の語彙別総正答率から正答者数をそれぞれ算出した。これと比較するため、今回の調査でも牛島と同様の方法で語彙別に正答者数を算出した。

2) 検査語彙の妥当性を検定するために、50年前の牛島の正答者数と今回の調査の正答者数を比較して「残差」とした。入れ換えた語彙についても、牛島の結果と新しい語彙による結果を比較して「残差」を出した。

3) 残差は平均 0, 分散 1 になるように標準化した。

4) 標準化した残差は正規分布に従うため、正規分布をあてはめた場合に両側 5%, 1% の

それぞれよりも外側（理解数の差が大きい）にある語彙をピックアップして、問題語彙（検討を要する語彙）とした。

表 6 対象症例数

年齢	性別	
	男	女
2 歳代	6	6
3 歳代	13	15
4 歳代	11	13
5 歳代	13	19
6 歳代	6	4
合 計	49	57
総 計	106	

表 7 今回の語彙検査に使用した 66 語

No.		表出	理解	No.		表出	理解	No.		表出	理解
1	おまわりさん			23	煙			45	海水浴		
2	時計			24	海			46	薄い		
3	帽子			25	女			47	浅い		
4	耳			26	木			48	貨物列車		
5	鉛筆			27	洗う			49	カンガルー		
6	ここ			28	長い			50	馬車		
7	魚			29	亀			51	将棋		
8	来る			30	冷たい			52	天気予報		
9	汽車			31	乾く			53	茎		
10	はさみ			32	窓			54	甲板		
11	おおきい			33	怒る			55	じょうろ		
12	好き			34	走る			56	昨晚		
13	あれ			35	医者			57	おだやか		
14	起きる			36	青			58	虫干し		
15	赤			37	後ろ			59	しげる		
16	わたし・ぼく			38	膝			60	危険		
17	鉄砲			39	飾る			61	占領する		
18	描く			40	母			62	命中する		
19	動く			41	看護婦さん			63	ほこり		
20	西瓜			42	腐る			64	曲がる		
21	皿			43	なす			65	悪い人		
22	少し			44	泥			66	海外旅行		

註：下線部は今回入れ換えた新しい語彙である

表8 今回の調査で入れ換えた語彙のまとめ

項 目	旧 (牛島式)	新 (森式改訂版)
No.1	兵 隊	おまわりさん
No.41	水 兵	看護婦さん
No.63	煤	ほ こ り
No.64	反 る	曲 が る
No.65	不 親 切	悪 い 人
No.66	洋 行 する	海 外 旅 行

## 結 果

1. 牛島の調査と今回の調査の正答率の比較(表9, 表10)

旧版(牛島式)は語彙の選定にあたってB式(理解課題)を基準として作成されたため, 旧版B式(牛島式)と森による新版B式の正答率を比較して表9にまとめた。

これらの答率を前述した方法で統計学的に処

表9 B式の旧版(牛島式)と森による新版の正答率の比較

No.	旧 版	%	新 版	%	No.	旧 版	%	新 版	%
1	兵隊	100.0	おまわりさん	88.7	34	走る	93.5		98.1
2	時計	100.0		96.2	35	医者	92.5		94.3
3	帽子	100.0		98.1	36	青	91.2		94.3
4	耳	100.0		94.3	37	後ろ	91.0		84.9
5	鉛筆	100.0		96.2	38	膝	89.5		82.1
6	ここ	100.0		88.7	39	飾る	88.0		72.6
7	魚	99.5		97.2	40	苺	87.8		97.2
8	来る	99.5		93.4	41	水兵	86.2	看護婦さん	74.5
9	汽車	99.0		94.3	42	腐る	86.0		77.4
10	はさみ	99.0		97.2	43	なす	85.5		89.6
11	大きい	99.0		97.2	44	泥	84.1		87.7
12	好き	99.0		93.4	45	海水浴	83.5		44.3
13	あれ	98.5		81.1	46	薄い	81.0		50.0
14	起きる	98.5		92.5	47	浅い	75.2		53.8
15	赤	98.5		98.1	48	貨物列車	74.8		60.4
16	わたし・ぼく	98.5		73.6	49	カンガルー	66.7		91.5
17	鉄砲	98.0		96.2	50	馬車	65.0		76.4
18	描く	98.0		94.3	51	将棋	52.9		77.4
19	動く	98.0		86.8	52	天気予報	33.2		50.0
20	西瓜	98.0		97.2	53	茎	26.5		44.3
21	皿	97.5		94.3	54	甲板	24.2		26.4
22	少し	97.5		90.6	55	じょうろ	20.3		81.1
23	煙	97.0		91.5	56	昨晚	19.2		1.9
24	海	96.5		93.4	57	おだやか	12.5		2.8
25	女	96.5		89.6	58	虫干し	9.8		29.2
26	木	96.0		92.5	59	しげる	7.8		36.8
27	洗う	96.0		94.3	60	危険	7.3		48.1
28	長い	95.5		91.5	61	占領する	5.6		2.8
29	亀	95.5		96.2	62	命中する	4.4		53.8
30	冷たい	95.0		90.6	63	煤	2.4	ほこり	68.9
31	乾く	94.0		77.4	64	反る	1.9	曲がる	80.2
32	窓	93.5		78.3	65	不親切	1.9	悪い人	52.8
33	怒る	93.5		95.3	66	洋行する	0.0	海外旅行	17.9

表10 統計学的に処理した場合に理解数の差が大きい語彙の一覧

旧版（牛島）の正答率が高かった語彙	
No.45	海水浴
No.46	薄い
森による新版の正答率が高かった語彙	
No.55	じょうろ
No.60	危険
No.61	命中する
No.63	ほこり
No.64	曲がる
No.65	悪い人

表12 検討を要する語彙 8語

No.	語 彙 名
45	海水浴
46	薄い
55	じょうろ
60	危険
62	命中する
63	ほこり
64	曲がる
65	悪い人
計	8語

表11 旧版と森による新版で正答率が一致した語彙58語

No.	一致語彙	No.	一致語彙
1	おまわりさん	30	冷たい
2	時計	31	乾く
3	帽子	32	窓
4	耳	33	怒る
5	鉛筆	34	走る
6	ここ	35	医者
7	魚	36	青
8	来る	37	後ろ
9	汽車	38	膝
10	はさみ	39	飾る
11	大きい	40	苺
12	好き	41	看護婦さん
13	あれ	42	腐る
14	起きる	43	なす
15	赤	44	泥
16	わたし・ぼく	47	浅い
17	鉄砲	48	貨物列車
18	描く	49	カンガルー
19	動く	50	馬車
20	西瓜	51	将棋
21	皿	52	天気予報
22	少し	53	茎
23	煙	54	甲板
24	海	56	昨晚
25	女	57	おだやか
26	木	58	虫干し
27	洗う	59	しげる
28	長い	62	命中する
29	亀	66	海外旅行
計		58語	

理した結果、理解数の差が大きい語彙を表10に示した。牛島の調査と比べて、今回の調査結果が明らかに悪かった語彙は「海水浴」・「薄い」の2語であり、反対に牛島の調査と比べて今回の調査結果が明らかに良かった語彙は「じょうろ」・「危険」・「命中する」・「ほこり」・「曲がる」・「悪い人」の6語であった。なお、旧版の語彙が今の時代にそぐわないと考えられたため、あらかじめ入れ換えた6語中牛島の結果と一致しなかった語彙は、「ほこり」・「曲がる」・「悪い人」の3語であった。「おまわりさん」・「看護婦さん」・「海外旅行」の3語は牛島の結果と一致した。

全体的にみると牛島によって作成された55語と新たに森が入れ換えた6語中3語、総計58語（88％）では、牛島の結果と今回の調査結果の間に差がなかった（表11）。残りの8語（12％）については今後検討の余地があった（表12）。

## 考 察

### 1. 全体的問題

今回検討の対象とした106例を、年齢別に分けると各年齢群で症例数にバラツキがあった。すなわち、3歳代から5歳代にかけて各年齢で男女合わせて20例以上の症例があったが、2歳代と6歳代は症例数がともに10例～12例で少なかった。統計学的には症例数が多いことが望ましく、今後さらに年齢別に症例数を増やした検討が必要であろう。

その際注意すべきことに、サンプルの母集団



が偏らないようにすることがある。今回調査した症例は両親の教育レベルが比較的高い市街地の共働き家庭の子供が中心であった。これは標準化のための調査としては子供の養育環境という点で、母集団に偏りがあると考えられた。親の教育レベルや家庭環境が子供の言語発達に影響を及ぼすことを示す知見は多く<sup>13)</sup>、こうした問題の影響をできるだけ排除し、もっとも平均的な子供の言語発達のレベルを把握するためには、今後は今回のような教育レベルの高い親が集まりやすい都市部のみならず、農村部・山間部・漁村部など子供の養育環境の異なる保育園でのサンプルの収集が必要と思われた。

## 2. 検査語彙の妥当性について

牛島によって作成された66語中55語とあらかじめ入れ換えた6語中3語、計58語(88%) (表11)で、50年前の結果と今回の結果で統計学的に一致を見た。特に、今回入れ換えた6語中3語(「おまわりさん」・「看護婦さん」・「海外旅行」)は妥当な語彙と考えられた。このことから、牛島式で使用された検査語彙をベースに著者らが改訂した今回の検査は、臨床的に十分使用できる検査法であると考えられた。

今後検討が必要な語彙は、理解数の差が大きかった「海水浴」・「薄い」・「じょうろ」・「危険」・「命中する」・「ほこり」・「曲がる」・「悪い人」の8語であった。特に、今回の結果はデータを収集した地域差も影響しているものと考えられた。すなわち、本研究で調査した保育園は岡山市内中心部近くに位置しており、園児たちは海に接する機会は少なく、「海水浴」よりも「プール」に語彙を入れ換えたならば、理解数は上昇したかもしれない。反対に、海沿いの地域で調査すれば良好すぎる結果が出たかもしれない。今後はこれらのことも考慮に入れながら様々な地域から資料を収集し、最も平均的な子供の正答率を求める必要があろう。

## 結 語

森式言語能力評価基準表の標準化に向けて、今回は下位検査の1つである牛島式語彙検査で使用された66語が現代でも適用可能かどうかを調査し、50年前の結果と比較した。その際、今の時代にそぐわないと考えられた6語に関しては、調査前にあらかじめ入れ換えを行った。

調査の結果は以下のようであった。

1. 入れ換えを行わなかった55語に関しては、50年前の牛島の調査と大きな差はなかった。
2. 新たに入れ換えた6語中3語も牛島による正答率とほぼ一致した結果を得た。
3. 新たに入れ換えた6語中3語と入れ換えなかった5語に関しては牛島の調査と今回の調査の間に差が生じ、今後の検討が必要であった。

以上のように検討しなければならない問題点はあるものの、50年前に作成された牛島式語彙検査をベースに森らが改訂した語彙検査は現在も十分に利用できることが確認された。森<sup>14)</sup>が総説で論じた如く、日本には0歳～6歳の乳幼児を対象として年齢別に子供の語彙能力を評価できる検査は皆無であり、短時間でその子供の語彙能力と年齢からみた遅滞の有無を評価できる点で、新版牛島式語彙検査(森らによって改訂されたもの)は、臨床的に有用な検査と考えられた。

稿を終えるにあたり、資料収集に多大な御協力をいただいた橘上中野保育園稲垣宗孝園長先生ならびに稲垣順子先生をはじめとする保育園の諸先生方、園児の皆様・御両親の皆様に、厚くお礼申し上げます。

また、資料の分析にあたって御協力いただいた岡山日本電気ソフトウェア株式会社の丸山芳寛氏、岩谷きよみ氏、井上恭子氏に深謝いたします。

## 文 献

- 1) 坂本龍生, 田川元康, 竹田契一, 松本治雄 編著(1985) 障害児理解の方法 臨床観察と検査法, 学苑社, 東京.

- 2) 森 寿子, 甲田早苗, 瀬尾邦子, 吉岡 豊(1989)言語治療20年間の動向と今後の展望. 川崎医学振興財団第1回中島賞発表大会集, pp 3—8.
- 3) 森 寿子, 小西静雄(1977)就学前聴能訓練期間と言語的知能検査成績の検討. *Audiology Japan*, **20**(5), 547—548.
- 4) 森 寿子, 小西静雄(1980)早期訓練を行った1高度難聴児の言語発達—主として語彙の発達について—(生後7ヵ月より満6歳までの記録). *ろう教育科学*, **22**(3, 4), 173—224.
- 5) 森 寿子(1993)重度聴覚障害児のスピーチの獲得—9歳の壁打破聴能訓練法からの挑戦—. にゅーろん社, 東京.
- 6) 森 寿子(1993)聴能訓練法からみた就学前言語教育の効果と限界, 残された研究課題—「9歳の壁」打破へ向けて, 23年間の知見の総括—. *音声言語医学*, **34**(3), 245—256.
- 7) 森 寿子(1992)聴覚障害児の言語学習条件整備用森式チェックリストの作成—就学前児用, 第1次試案—. *川崎医療福祉学会誌*, **2**(1), 151—161.
- 8) 森 寿子, 佐藤幸弘, 吉岡 豊, 藤野 博, 井上恭子(1993)聴覚障害児の言語学習条件整備用森式チェックリストの妥当性検定—臨床応用上の問題点に関する研究—. *川崎医療福祉学会誌*, **3**(1), pp 129—143.
- 9) 吉岡 豊, 森 寿子, 折田洋造(1993)森式チェックリストの第1次試案の統計学的検定結果(その1). *Audiology Japan*, **36**(5), pp 659—660.
- 10) 瀬尾邦子, 森 寿子, 吉岡 豊, 折田洋造(1993)森式チェックリスト改訂版の作成について(その2). *Audiology Japan*, **36**(5), 661—662.
- 11) 森 寿子, 吉岡 豊, 折田洋造(1993)森式チェックリストの臨床的意義と今後の課題(その3)—「9歳の壁」打破のための2つの予測モデル構築の可能性—. *Audiology Japan*, **36**(5), 663—664.
- 12) 牛島義友(1943)幼児語彙検査. 愛育研究所編, 幼児の言語発達, 日黒書店, 東京, pp 80—110.
- 13) 斎藤こずゑ(1983)言語行動の発達の母子相互作用. *周産期医学*, **13**, 2226—2231.
- 14) 森 寿子(1992)日本における語彙評価の現状と問題点—正常児・者を対象とした研究—. 日本音声言語医学会聴覚障害小委員会, 聴覚障害児の言語評価についての研究—評価項目の検討とその問題点, pp 11—19.